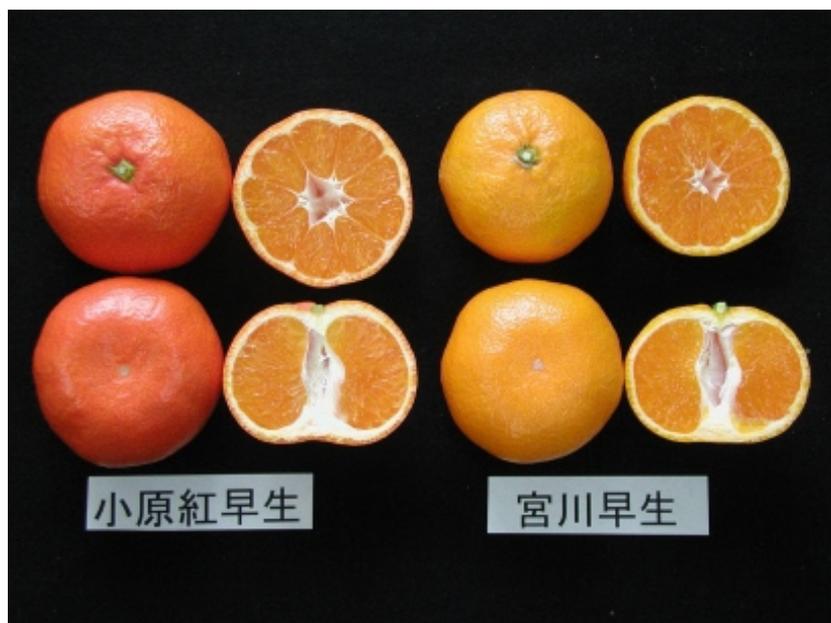


資料 No. 1

果皮、果肉の色比較



一般的な早生みかん：宮川早生

資料 No. 2

香川小原紅早生みかんの単価

	平均単価 kg/円	
	香川 小原紅早生みかん※	温州みかん類※※ (大阪市中央卸売市場本場)
平成 27 年	348	264
平成 26 年	275	228
平成 25 年	326	248
平成 24 年	341	254

※ 出典：JA 香川県調べ

(香川小原紅早生みかん単価は、市場出荷された小原紅早生全体の平均単価)

※※出典：大阪市中央卸売市場年報 平成 27 年度、平成 26 年度
年間月別類取扱高推移表 (本場) 温州みかん類

資料 No. 3

香川小原紅早生みかんの栽培管理

植栽

○植栽基準

中庸地		肥沃地	
当初間隔 (本/10a)	最終間隔 (本/10a)	当初間隔 (本/10a)	最終間隔 (本/10a)
2.0m×2.5m (200)	4.0m×5.0m (50)	2.5m×2.5m (160)	5.0m×5.0m (40)

上記については目安とする。

整枝・せん定

果皮が退色しやすいこと、隔年結果性が他のうんしゅうより強いことから、葉数と高品質果実を生産できるしなやかな結果枝を確保することに努める。

収穫時期が他の早生うんしゅうより遅いため、隔年結果を招きやすいので、予備枝のせん定は秋季に行っておき、豊作年の着花を抑制することに努める。

摘果

他のうんしゅう以上に着果位置を揃えることにより、品質と着色の均一化を図る必要がある。紅色色素は紫外線により分解されやすいので、樹冠上部や南向きに着果した果実は直接日光を避けるため、やや内側に結実させることに努める。

- ・着果量の多い樹では、粗摘果を行った後、仕上げ摘果を行う。
- ・着果量の少ない樹では、粗摘果は行わず、仕上げ摘果のみで対応する。

収穫・予措・貯蔵

- ・品質を揃えるため必ず樹冠外周部と内部の果実を区分して収穫する。

別表

香川小原紅早生みかん出荷規格

【等級区分】

区分	基準
秀	品種固有の色沢を有するもの 玉ぞろいは異なる大きさのものが混入しないもの 異品種果、腐敗変質果、未熟果、傷害果が混入しないもの 外観不良果はほとんどないもの
優	品種固有の色沢を有するもの 玉ぞろいは異なる大きさのものが混入しないもの 異品種果、腐敗変質果、未熟果、傷害果が混入しないもの 外観不良果はおおむねないもの
良	品種固有の色沢を有するもの 玉ぞろいは異なる大きさのものが混入しないもの 異品種果、腐敗変質果、未熟果、傷害果が混入しないもの 外観不良果は秀又は優に属さないもの

【階級区分】

階級	果の直径
3L	8.0cm 以上
2L	7.3cm 以上 8.0cm 未満
L	6.7cm 以上 7.3cm 未満
M	6.1cm 以上 6.7cm 未満
S	5.5cm 以上 6.1cm 未満
2S	5.0cm 以上 5.5cm 未満
3S	4.5cm 以上 5.0cm 未満

◆出荷品質基準

	基準糖度	基準クエン酸
香川小原紅 早生みかん	10.0度以上	0.8～1.0%

資料 No. 4

香川小原紅早生みかんの生産状況

「小原紅早生」生産状況の推移(香川県内地域別)

(単位 : ha)

	東讃地域	小豆地域	中讃地域	西讃地域	全体
平成 14 年	3.5	0.5	17.0	0.7	21.7
平成 15 年	4.5	0.5	18.0	0.7	23.7
平成 16 年	6.0	0.5	20.0	0.7	27.2
平成 17 年	8.0	0.5	21.0	0.7	30.2
平成 18 年	9.0	0.5	25.0	1.6	36.1
平成 19 年	10.0	0.6	25.6	1.9	38.1
平成 20 年	10.0	0.6	32.3	2.1	45.0
平成 21 年	15.2	0.6	35.1	2.1	54.3
平成 22 年	15.6	0.6	38.1	2.3	56.6
平成 23 年	16.3	0.7	40.8	2.7	60.5
平成 24 年	16.9	0.8	43.5	3.2	64.3
平成 25 年	18.3	0.9	48.0	3.4	70.6
平成 26 年	19.7	1.0	51.3	4.3	76.3